

使ってみよう！ダンボールコンポスト

ダンボールコンポストとは、ダンボール箱を利用した生ごみ処理容器で、ダンボール箱に土壌改良材を入れ、微生物の力によって生ごみを分解し、たい肥を作るものです。

少ない費用で、冬でも室内でたい肥が作れます。
ぜひ、お試しください。

◆用意するもの

○容器

- ・ダンボール箱（縦 30cm×横 45cm×高さ 30cm 程度）
※「みかん箱」などの厚めのもの。
薄いようであれば、二重にしてください。

○下敷き

- ・ダンボール箱
※強度を上げるため、箱の中に敷きます。

○基材

- ・ピートモス（土壌改良剤）
- ・くんたん（土壌改良剤）
※園芸店やホームセンターで購入できます。

○基礎

- ・木片（4つ）やガムテープの芯（5つ）
※風通しをよくするため

○その他

- ・ガムテープ
※ダンボールの隙間を埋めるため
- ・はさみ
※ダンボールやガムテープのカットに使用するため
- ・新聞紙
※床の汚れ防止のため
- ・シャベル
※ダンボール内をかきまぜるため
- ・温度計
※ダンボール内の温度を確認するため
- ・はかり
※投入する生ごみの量を計量するため



このコンポストに、生ごみを1日平均 500 g 投入すると約3ヶ月間ごみの処理ができます。

◆ダンボールコンポストの作り方

- ①ダンボール（容器）の底から基材（ピートモスなど）が出ないように隙間をガムテープでふさぎます。
- ②箱の中に、底のサイズに合わせてカットした下敷き用のダンボールを敷きます。（これにより底が二重になります。）
- ③基材のピートモス（15リットル）とくんたん（10リットル）を3対2の割合でダンボールの中に入れ、よくかき混ぜます。
- ④温度が15℃程度の場所に新聞紙を敷き、その上に基礎となる木片（もしくはガムテープの芯）を置きます。
- ⑤基礎の上に③のダンボールを置きます。
- ⑥水を切った生ごみを1日あたり200～300g程度入れます。
※200～300gは初めの1～2週間。それ以降は500g程度でも大丈夫です。
- ⑦ダンボールの中をシャベルでよくかき混ぜます。
- ⑧温度計をダンボールの中にさします。
- ⑨ダンボールのふたを閉じます。（虫が入らないようきちんと閉めましょう。）

作り方は以上です。作ってから約1週間経つと、生ごみの分解が本格的にスタートします。

◆毎日の利用方法

- ①前日に入れた生ごみ部分をよくかき混ぜます。
- ②ダンボールの中心部にシャベルで穴を掘ります。
- ③掘った穴に生ごみ（500g程度）を入れます。
- ④生ごみの上に基材をかぶせます。
- ⑤虫が入らないようにふたを閉じます。



【たい肥にするには】

基材に塊が多くなり、べたついた状態になったら、生ごみを入れるのをやめ、約1週かき混ぜます。その後、同量の土と混ぜて約1ヶ月寝かせたら、たい肥として使用できます。
※できたたい肥の利用方法は「生ごみたい肥の利用方法」をご覧ください。

◆長く続けるコツは・・・

- その1：ダンボールコンポストは微生物が生ごみを分解します。
このため、1日1回、できれば2回以上、ダンボールの中をよくかき混ぜ、ダンボール内に酸素を行き渡らせ、微生物が生ごみを分解しやすい環境を作りましょう。
- その2：一度にたくさん生ごみを入れると微生物の分解が追いつかず、虫の発生や臭いの原因になることがあります。入れる量を注意しましょう。
- その3：ほとんどの食べ物が入れられますが、カニの殻やトウモロコシの芯などは分解しにくいようです。
- その4：寒い時期は微生物の働きを助けるために、日なたに置き、ダンボールコンポストを温かくしましょう。

肥料を「育てる」感覚でやると楽しく続けられます。
皆さんもぜひお試しください。